

# 2016年度第2四半期決算

取締役 兼 執行役員常務

財務・調達本部長 兼 グループ・グローバル経営推進本部長

荻原 弘之

2016年11月2日

古河電気工業株式会社

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

# 2016年度上半期のポイントと通期の見通し

## 上半期

- 営業利益は、前年比+41億円増(+45%増)の133億円
  - 円高進行の影響を受けたものの、主に情報通信ソリューション（インフラセグメント）で、大幅実質増益+63億円  
銅箔事業（機能製品セグメント）の構造改革効果等も増益に寄与
- 純利益は、前年比+47億円増の67億円
  - 持分法投資損益の悪化や円高による為替差損の増加があったものの、営業利益の増益に加え、固定資産売却等による特別利益の計上等により増益

## 通期

- 営業利益を、前回予想275億円から290億円に+15億円上方修正  
(売上高は、円高と銅価下落の影響を鑑み下方修正)

(単位：億円)

	15年度	16年度			
	実績	前回予想	今回予想	前年比	前予比
売上高	8,749	8,600	8,200	△ 549	△ 400
営業利益	271	275	290	+19	+15

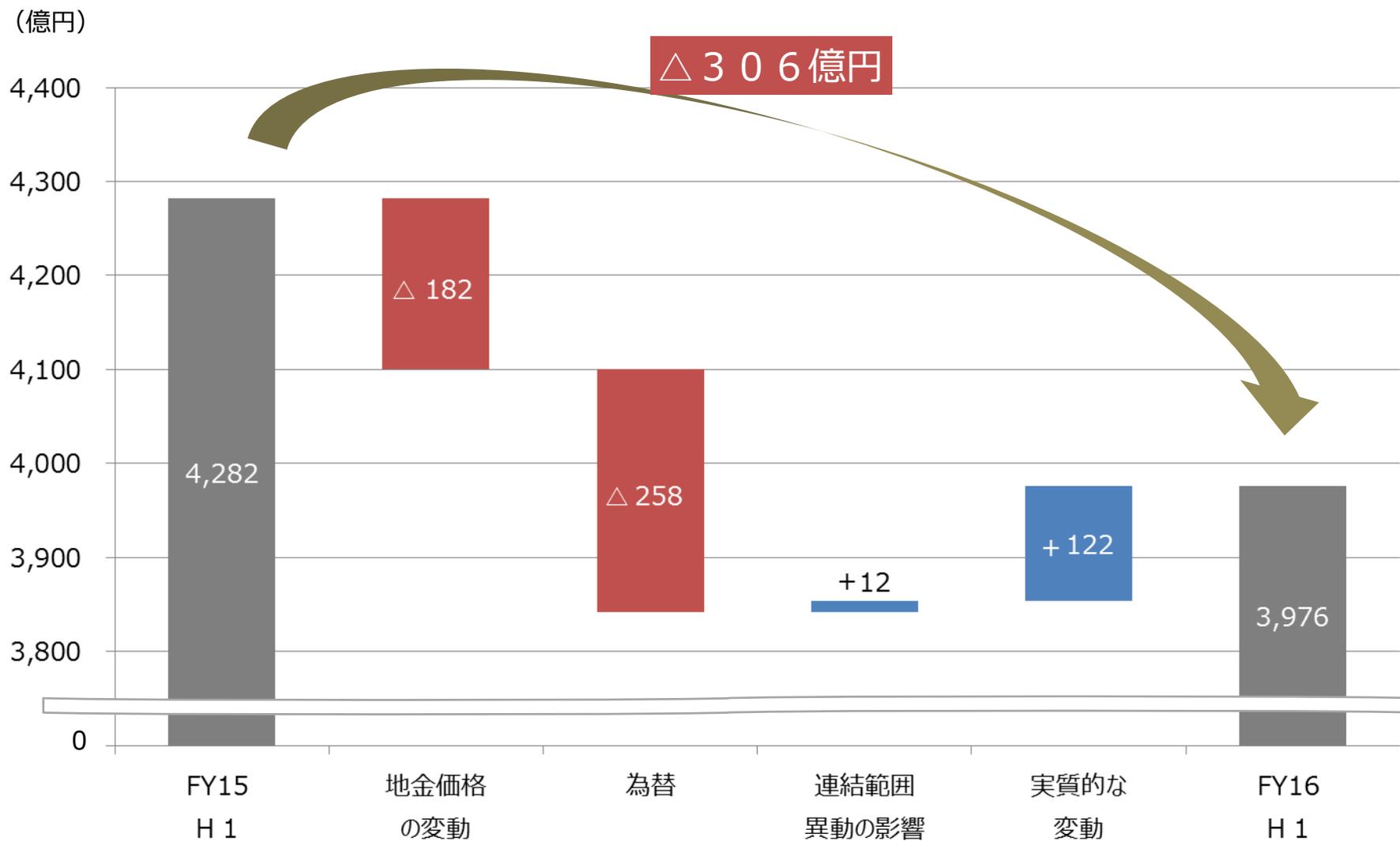
※下半期予想前提 為替 前回110円/米ドル⇒今回100円/米ドル 銅建値 前回600円/kg⇒今回510円/kg

# 16年度上半期実績 – 要約P&L

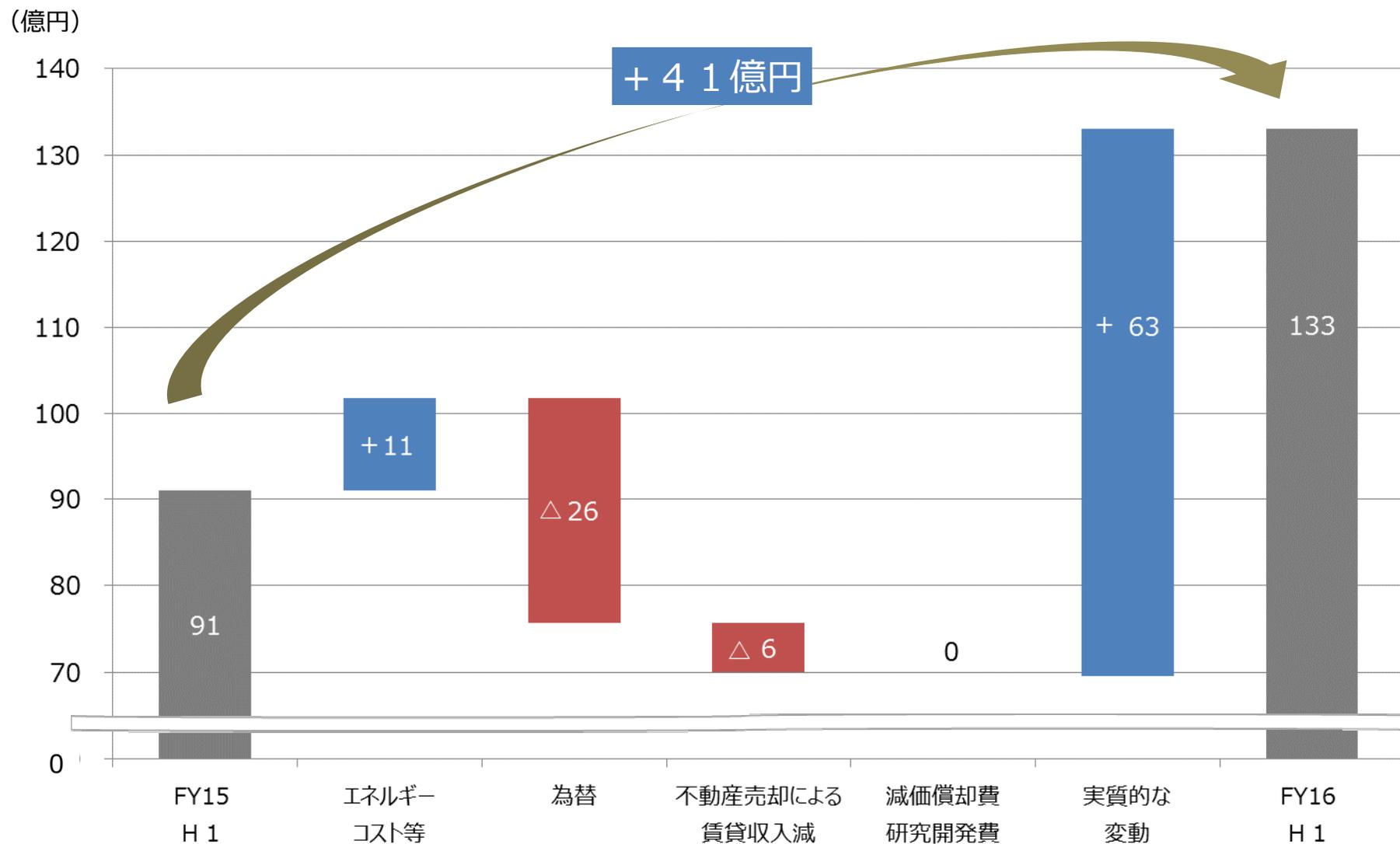
(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	15H1 実績	16H1 前回予想	16H1 実績	前年比 増減	前予比 増減	主な増減内訳 (H1前年比)
	a	b	c	c-a	c-b	
売上高	4,282	4,100	3,976	△ 306	△ 124	5ページ参照
営業利益 (率)	91 2.1%	95 2.3%	133 3.3%	+41 +1.2%	+38 +1.0%	6ページ参照
持分法投資損益	5	—	△ 10	△ 15	—	
為替損益	△ 6	—	△ 12	△ 6	—	
経常利益 (率)	79 1.9%	65 1.6%	102 2.6%	+22 +0.7%	+37 +1.0%	
特別損益	△ 16	31	16	+32	△ 15	・特別利益：+39 (6→45)
法人税等	33	—	30	△ 3	—	・特別損失：△7 (△22→△29)
非支配株主に帰属する 当期純利益	11	—	21	+10	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	20 0.5%	50 1.2%	67 1.7%	+47 +1.2%	+17 +0.5%	
銅建値 平均	738	578	544	—	—	
為替 平均	122	110	105	—	—	

# 売上高の増減要因（前年同期比）



# 営業利益の増減要因（前年同期比）



# 16年度上半期実績 – セグメント別

(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	FY15H1 実績	FY16H1 前回予想	FY16H1 実績	対 前年度	対 前予想
インフラ	1,233	1,250	1,225	▲ 7	▲ 25
情報通信ソリューション	775	800	798	+23	▲ 2
エネルギーインフラ	458	450	427	▲ 31	▲ 23
電装エレクトロニクス	2,405	2,200	2,152	▲ 253	▲ 48
自動車部品・電池	1,101	1,100	1,047	▲ 54	▲ 53
電装エレクトロニクス材料	1,304	1,100	1,105	▲ 199	+5
機能製品	686	700	659	▲ 27	▲ 41
サービス・開発等	248	250	239	▲ 9	▲ 11
連結消去	▲ 289	▲ 300	▲ 299	▲ 10	+1
売上高	4,282	4,100	3,976	▲ 306	▲ 124
インフラ	25	38	53	+29	+15
情報通信ソリューション	31	43	58	+28	+15
エネルギーインフラ	▲ 6	▲ 5	▲ 5	+1	0
電装エレクトロニクス	30	21	33	+3	+12
自動車部品・電池	20	17	27	+7	+10
電装エレクトロニクス材料	10	4	6	▲ 4	+2
機能製品	37	41	50	+14	+9
サービス・開発等	▲ 0	▲ 5	▲ 4	▲ 4	+1
連結消去	▲ 0	0	0	0	0
営業利益	91	95	133	+41	+38

# 16年度上半期実績 – 要約 B/S

(単位：億円)

	15Q4末	16Q2末	増減	主な増減要因
	a	b	b-a	
流動資産	3,640	3,431	△ 209	
現金及び預金	525	469	△ 56	
受取手形及び売掛金	1,870	1,702	△ 168	主に為替変動の影響
固定資産	3,417	3,377	△ 40	
有形固定資産	1,965	1,894	△ 71	主に為替変動の影響
無形固定資産	85	78	△ 7	(設備投資 116、減価償却 115)
投資その他の資産	1,366	1,405	38	投資有価証券時価評価差額等
資産合計	7,057	6,808	△ 249	為替と銅価下落の影響により、総資産が大幅に減少
流動負債	2,993	2,611	△ 382	
固定負債	2,078	2,194	116	
負債合計	5,071	4,805	△ 266	
株主資本	1,809	1,836	27	純利益増
その他の包括利益累計額	△ 77	△ 93	△ 15	為替換算調整勘定 △123、その他有価証券評価差額金 +92
非支配株主持分	254	259	5	
純資産合計	1,986	2,003	17	
負債純資産合計	7,057	6,808	△ 249	
有利子負債	2,578	2,479	△ 99	
自己資本比率	24.5%	25.6%	+1.1%	
D/Eレシオ	1.49	1.42	△ 0.07	

# 16年度通期予想見直し – 要約P&L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY 15 実績	FY 16 前回予想	FY 16 予想	前年比 増減	前予比 増減
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	8,749	8,600	8,200	△ 549	△ 400
営業利益	271	275	290	+19	+15
(率)	3.1%	3.2%	3.5%	+0.4%	+0.3%
持分法投資損益	△ 57	–	–	–	–
為替損益	△ 21	–	–	–	–
経常利益	187	255	255	+68	+0
(率)	2.1%	3.0%	3.1%	+1.0%	+0.1%
特別損益	27	△ 6	△ 6	△ 33	+0
法人税等	79	–	–	–	–
非支配株主に帰属する当期純利益	34	–	–	–	–
親会社株主に帰属する当期純利益	100	125	125	+25	+0
(率)	1.1%	1.5%	1.5%	+0.4%	+0.1%
銅建値 平均	676	600	※1 527	–	–
為替 平均	120	110	※2 103	–	–

( ※1 H1実績：544 H2前提：510) ( ※2 H1実績：105 H2前提：100)

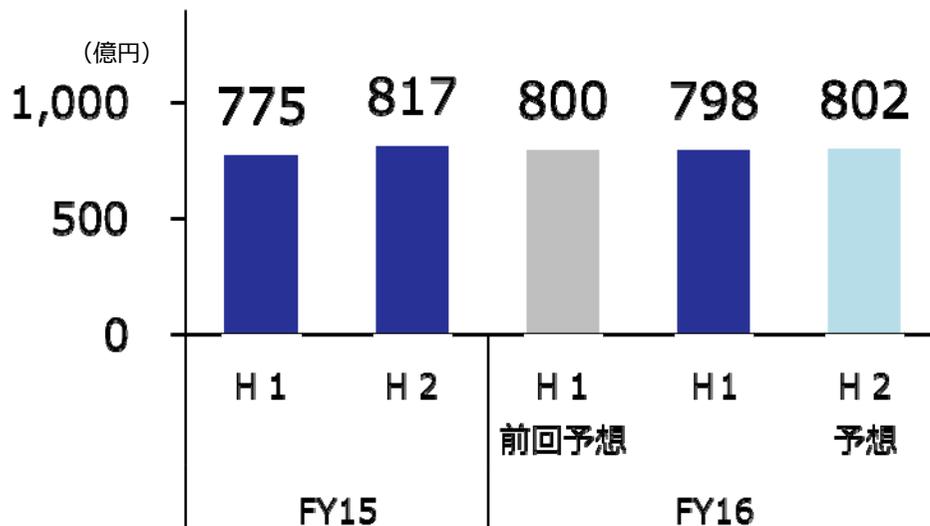
# 16年度通期予想見直し－セグメント別

(単位：億円)

上段：売上高 下段：営業利益	FY15 実績	FY16 前回予想	FY16 今回予想	対 前年度	対 前予想
インフラ	2,527	2,600	2,550	+23	▲ 50
情報通信ソリューション	1,591	1,550	1,600	+9	+50
エネルギーインフラ	935	1,050	950	+15	▲ 100
電装エレクトロニクス	4,911	4,700	4,450	▲ 461	▲ 250
自動車部品・電池	2,341	2,400	2,250	▲ 91	▲ 150
電装エレクトロニクス材料	2,570	2,300	2,200	▲ 370	▲ 100
機能製品	1,363	1,400	1,350	▲ 13	▲ 50
サービス・開発等	515	500	500	▲ 15	0
連結消去	▲ 567	▲ 600	▲ 650	▲ 83	▲ 50
売上高	8,749	8,600	8,200	▲ 549	▲ 400
インフラ	77	75	100	+23	+25
情報通信ソリューション	80	81	111	+31	+30
エネルギーインフラ	▲ 3	▲ 6	▲ 11	▲ 8	▲ 5
電装エレクトロニクス	105	120	102	▲ 3	▲ 18
自動車部品・電池	80	90	87	+7	▲ 3
電装エレクトロニクス材料	24	30	15	▲ 9	▲ 15
機能製品	85	85	100	+15	+15
サービス・開発等	4	▲ 5	▲ 10	▲ 14	▲ 5
連結消去	1	0	▲ 2	▲ 3	▲ 2
営業利益	271	275	290	+19	+15

# 1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

## 売上高



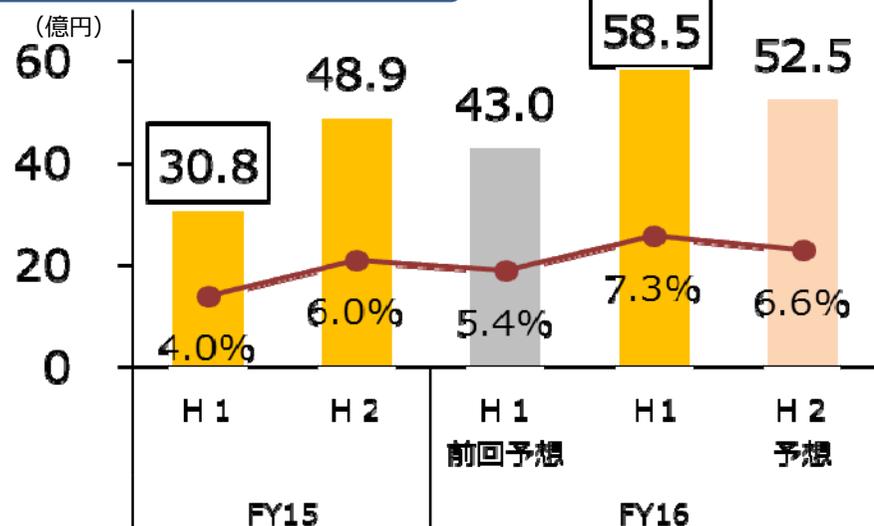
## <営業利益の増減内容>

**H1実績：前年差 +27.6億円**

□：増益要因 ■：減益要因

- 北米を中心とした光ファイバ需要増に加え、製品ミックスや価格水準も好転
- デジタルコヒーレント関連製品の需要も堅調
- 円高による光ファイバ輸出、在外子会社の為替換算差が、売上・営業利益に影響

## 営業利益・営業利益率

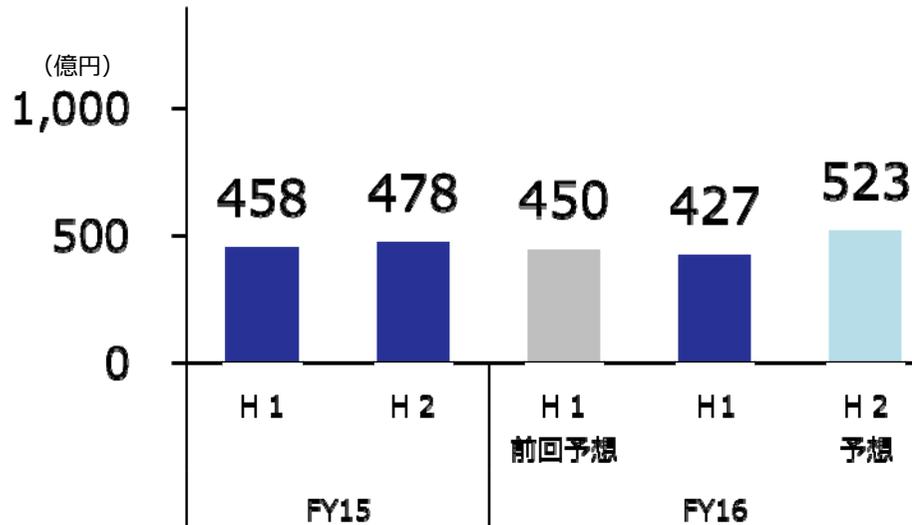


## H2予想

- ・ 光ファイバの需要好調は継続も、主に円高進行の影響あり

# 1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

## 売上高



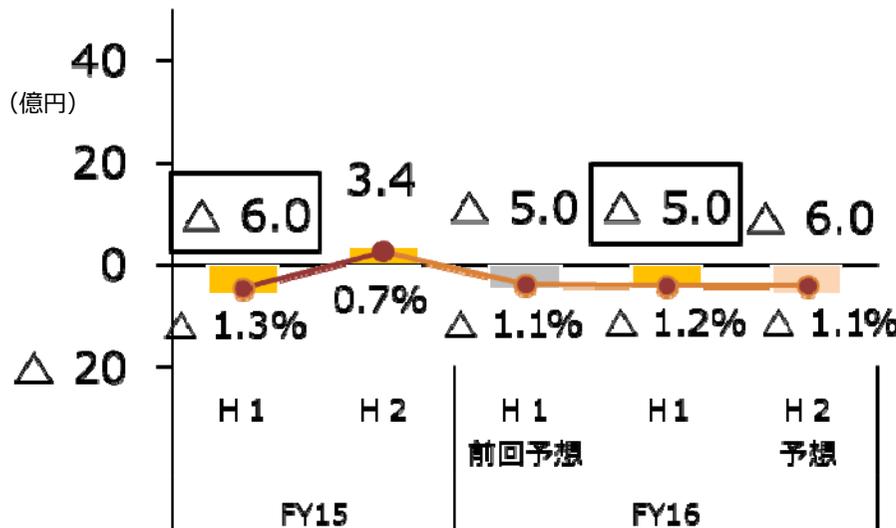
## <営業利益の増減内容>

**H1実績：前年差 +1.0億円**

□：増益要因 ■：減益要因

- 中国の高圧電力ケーブルが改善
- 国内の中低圧電力ケーブルは、建設・電販市場の需要低迷により減収

## 営業利益・営業利益率

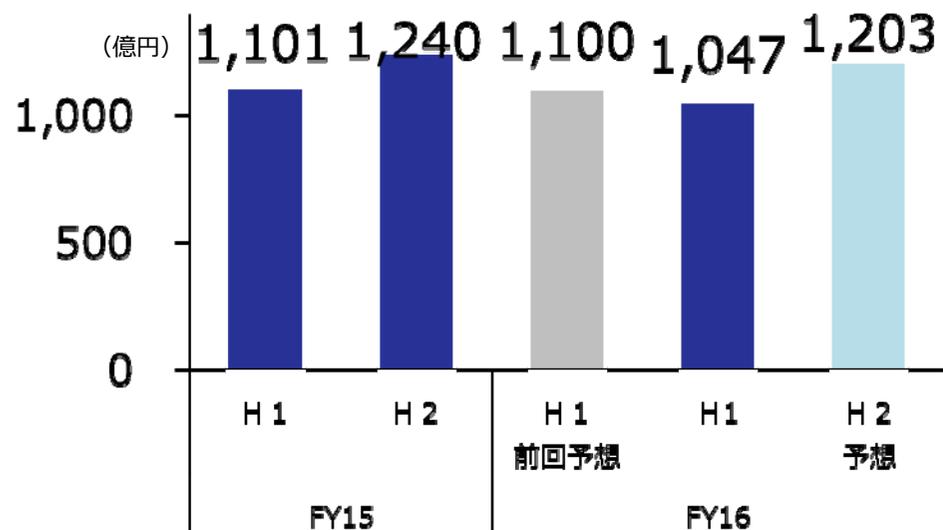


## H2予想

- ・ (株)ビスカスの地中および海底送電事業取り込みに伴い、増収するものの、一時的なコスト増が発生
- ・ 送変電部品が季節性などで増収

# 2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池) FURUKAWA ELECTRIC

## 売上高



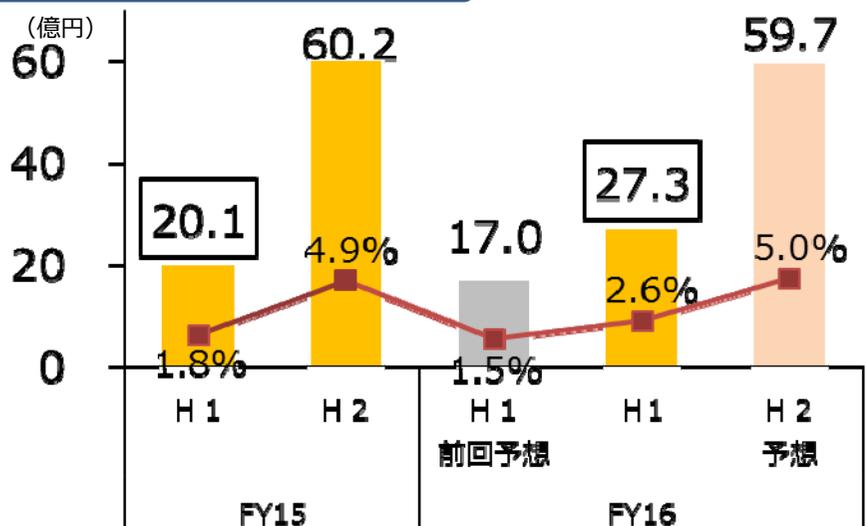
## <営業利益の増減内容>

**H1実績：前年差 + 7.2億円**

□ : 増益要因 ■ : 減益要因

- 自動車部品は、当社主力車種のモデルチェンジを下期に控え、買い控えの影響を受けた前年上期から回復
- 電池は、為替の影響があるものの、タイでの販売好調等で増益

## 営業利益・営業利益率



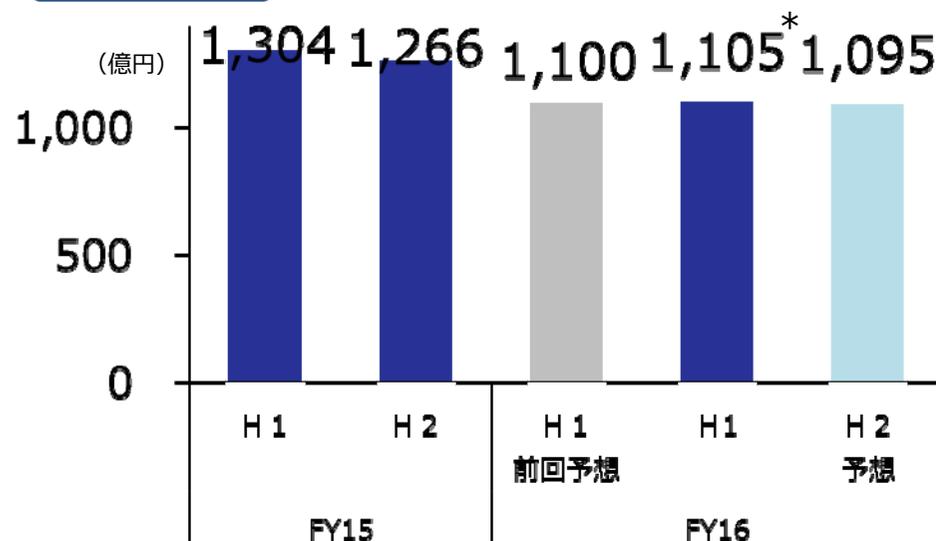
## H2予想

- 自動車部品は、メキシコ拠点のコスト改善は進んだものの、国内需要の減速を見込む
- 電池は、季節性で増益

## 2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

### 売上高

\* 減収の主な要因は銅価下落



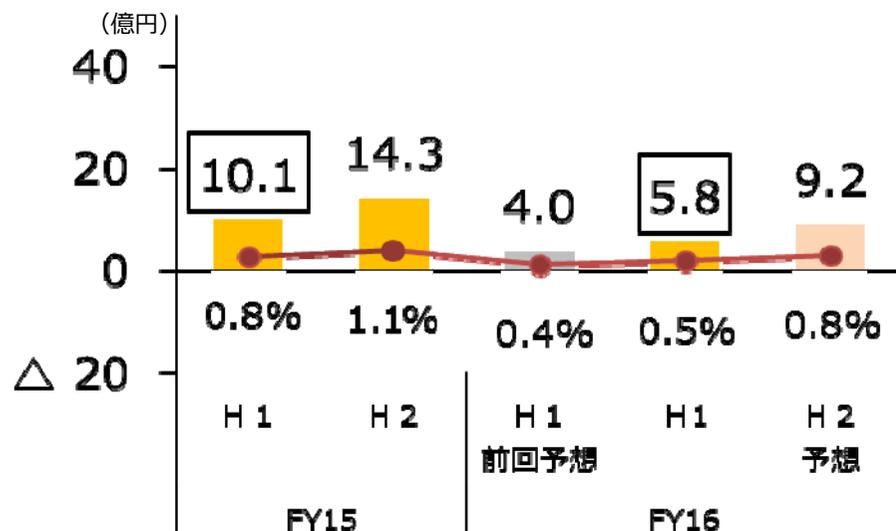
### <営業利益の増減内容>

#### H1実績：前年差 ▲4.3億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 銅条・高機能材は、伸銅製品の数量が着実に回復してきているものの、開発案件で一時的なコスト増あり、減益

### 営業利益・営業利益率

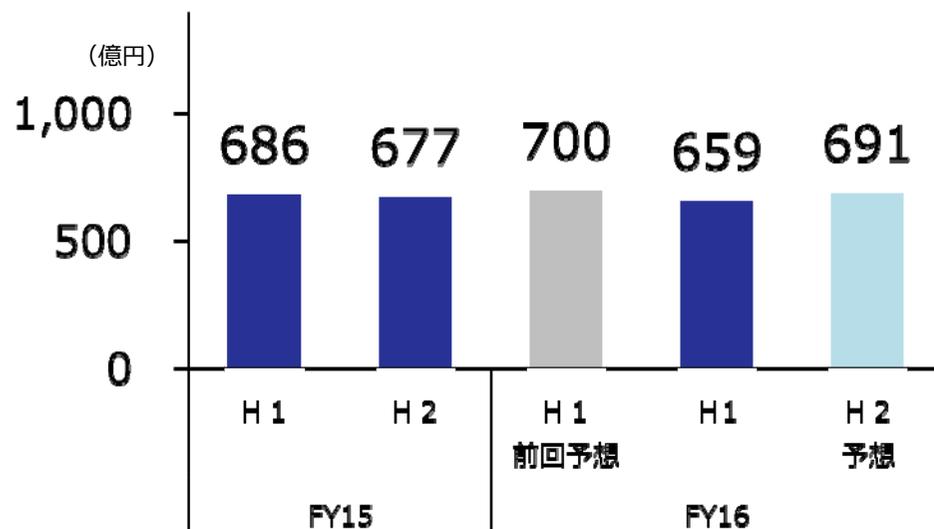


#### H2予想

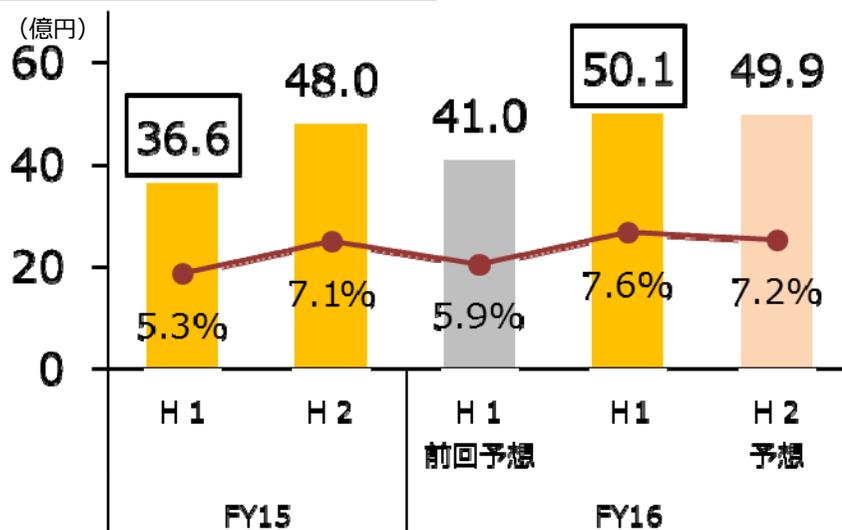
- ・ 銅条・高機能材は、伸銅製品のさらなる改善を見込むものの、開発案件の一時的なコスト増が下期まで継続

# 3 機能製品

## 売上高



## 営業利益・営業利益率



## <営業利益の増減内容>

**H1実績：前年差 +13.6億円**

□：増益要因 ■：減益要因

- 半導体製造用テープは、需要増が寄与
- 銅箔は、国内拠点の構造改革効果や台湾への製造移管、付加価値商品の構成比増が寄与
- サーマル・電子部品及びメモリーディスクは、P C などエレクトロニクス市場低迷で、減収

## H2予想

- ・ 半導体製造用テープは、好調継続

# 16年度上半期実績と通期予想見直し 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)

	FY15 H1実績	FY16 H1実績	前年比 増減	FY15 実績	FY16 前回予想	FY16 予想	前年比 増減	前予比 増減
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d
設備投資額	105	116	+11	257	380	380	+123	0
減価償却費	116	115	△ 1	232	270	243	+11	△ 27 <sup>*</sup>
研究開発費	82	84	+1	168	180	180	+12	0

\* 減額の一部は為替影響

ご清聴ありがとうございました。

***Bound to***  ***Innovate***